
貴女という.....

れんにゅー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴女といつ
……

【Zコード】

N4934A

【作者名】

れんにゅー

【あらすじ】

いつかの、どこかの、だれかの話。ありふれた二人の話。

肺や心臓が健康不健康に関わらず動く事を生きていると呼んで言
いのかなど思考する価値もなくノーであるわけではある。

どこかのだれかさんのように繭にでもなつてみようか。

、さりとて、僕は未来に羽ばたく虹色の蝶などではなく。

全くだ。

、僕という僕の本質は、どこからどこまで腐食しているのか。
全くだ。

、俺という僕の本質は、どこからどこまでも輝いていたはず。
全くだ。いつから、どこから、何故錆びたなどと問う無かれ。答
えはいつだって自分の過去にあり、問題はいつだって自分の過去に
ある。俺が答えた。カンニングはいけないな。僕という俺。

、生憎と、この事項は試験等という生易しいものじゃない。
そもそも答えなどあつてないもの。過去を切り捨て、現在を削り取
り、未来を想像し、破綻する。そうして生きてきた。切り捨てたモ
ノは既に灰となつて消えた。従つて僕という俺、僕という僕に問題
も答えもない。あるものは未来というモノだけである。ほら、後ろ
を見るがいい。足跡など一つとして残らず、常に変化する俺／僕は
他人から影響を受けているようで事実はその逆。影響を与える周囲を
混乱させ破滅させていく。身に覚えが無いわけではあるまい。

その通り。俺という小石一つで繋がる人達が写る水面は揺れ、繋
がりは揺れて、千切れて、消える。いるだけで周りを悪に引っ張つ
ていく僕／僕だ。さつさと終わらせるが賢明か。

、そんなことをしたとして、それでも俺と共に壊れた者が救
われるはずが無い。

しかれど、こう生きていたとしてその罪が滅ぶわけではないこと
はわかっているだろう、僕。ならなおさらのこと。消えてみようか。
、いかげんに目を覚ませよ。この愚図が。この「」。この

無知の救えぬ餓鬼。お前程度の人間が他人に影響を、最悪を与えたなどと本気で思っているのか。とんだお笑い種。お前がそんなくだらない事をくだらないまでに考えているから……くだらない！　くだらない！　くだらない！　実際に！　くだらない！！　死んで終わり？　本当にくだらない！　そんなものは最低！　人間にはたしかにこれ以上生きていってもしようがない時はあるかもしない。だが！　それを決めるのはお前じゃない！！　足掻いて、もがいて、身を極炎に焼かれながらも！！　それでも……それでも前だけを見据えて走った人間が最後の最後、本当の最後にはじめてその傷だらけの身を横たえることができる！！　それが生きていてもしようがない時！！　生まれてきた意味を、生きてきた意味を、皆から祝福された時！！　お前のその愚考はお前の保身しか考えていない！！　足掻くのは、もがくのは、炎に身を焼かれるのがどうしようもなく辛いから！！　痛いから！！　嫌だから！！　足掻け！！　もがけ！！　苦しめ！！　突き刺さる惡意や身を焼く炎に！！　生きてみろ！！　それが、罪を滅ぼすということ。死んで、どうする。少なくとも、お前が切り捨てた過去ではお前を必要として救われていた筈だ。一度だけかもしけない、私の思い過ごしかかもしれない。それでも、それでも、そうだとしても……あの時の一瞬は、綺麗な本物、美しい真実だった。

だけど……辛いんだ。君がいない。それが、ただ辛い。あの時、あの一瞬、綺麗な本当、美しい真実が、辛い。

、背負つて、走つて。そのための足でしょ？　その姿が、美しいから、私は君を愛した。そして、また君の前にこうして在る。そのための片方の足が……無い。君が……無い。

、片方の足で、走る。

転んだら立ち上がれないかもしねりない。

、這つてでも、進む。

這つたための腕が、動かないときが来るかもしねりない。

それが、俺／あなたの、ゴール。

ゆっくりと目を開く。

軋む体は白い機器と繋がっている。

さて……どういう経緯で俺がこうなってしまったのかは思い出せないが、ただ、どうなってこうなったのかなど関係なく俺はしばらく全力で走らねばなるまい。

その道はきっと死ぬほど苦しい。

足搔くのは、惨めで辛い。

もがくのは、惨めで辛い。

それでも、走らぬわけにはいかぬ。それゆえ、逃げるわけにはいかぬ。走り終えた先の景色を見るために、抱きしめた夢にキスをするために、走りう。

惨めだつて構わない。

辛くたつて構わない。

痛くたつて構わない。

あの時、あの場所の言葉を切り捨てようとも、それが真実であることに変わりはないから。

生きていこう。

貴女が、好きです。

馬鹿みたいに、叫び続けるから。

喉が枯れても、

言葉を忘れても、

貴女が、
好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4934a/>

貴女という.....

2011年1月4日02時10分発行